

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9月2日 11:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 39,500～45,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 37,500～45,800 ドル
(S&P500) 5000～6550

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,000～24,000
(ナスダック総合) 18,000～22,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

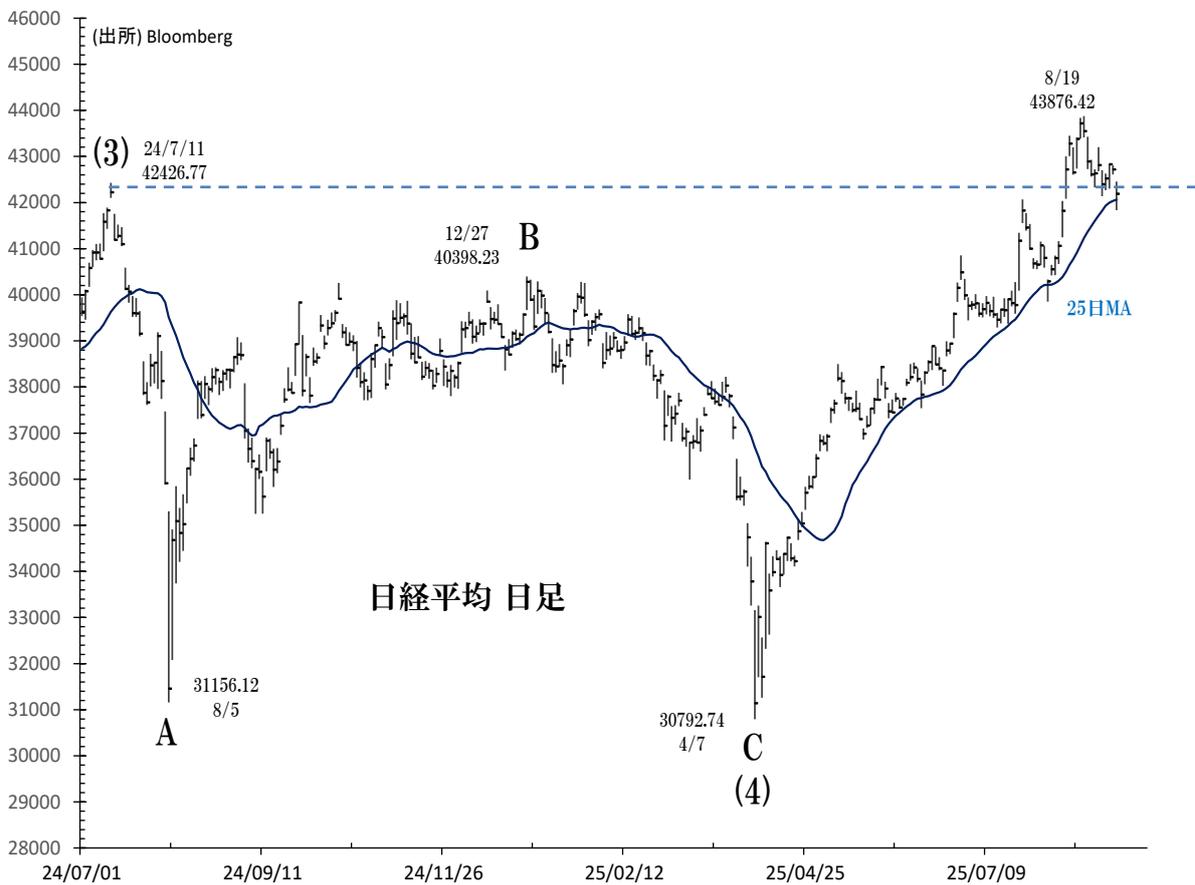
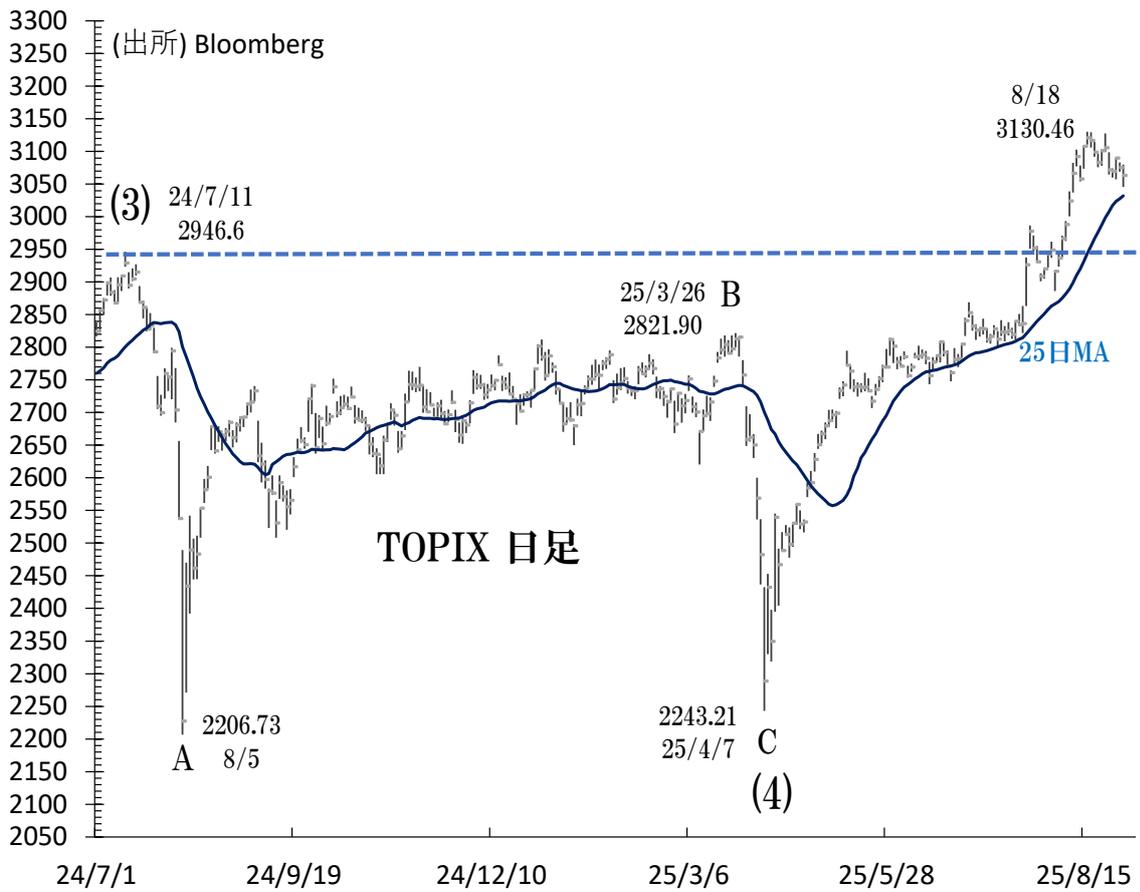
今年 4 月安値 (30,792.74 円) からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底 (16,358.19 円、20 年 3 月) からのプライマリー第③波は完成します。

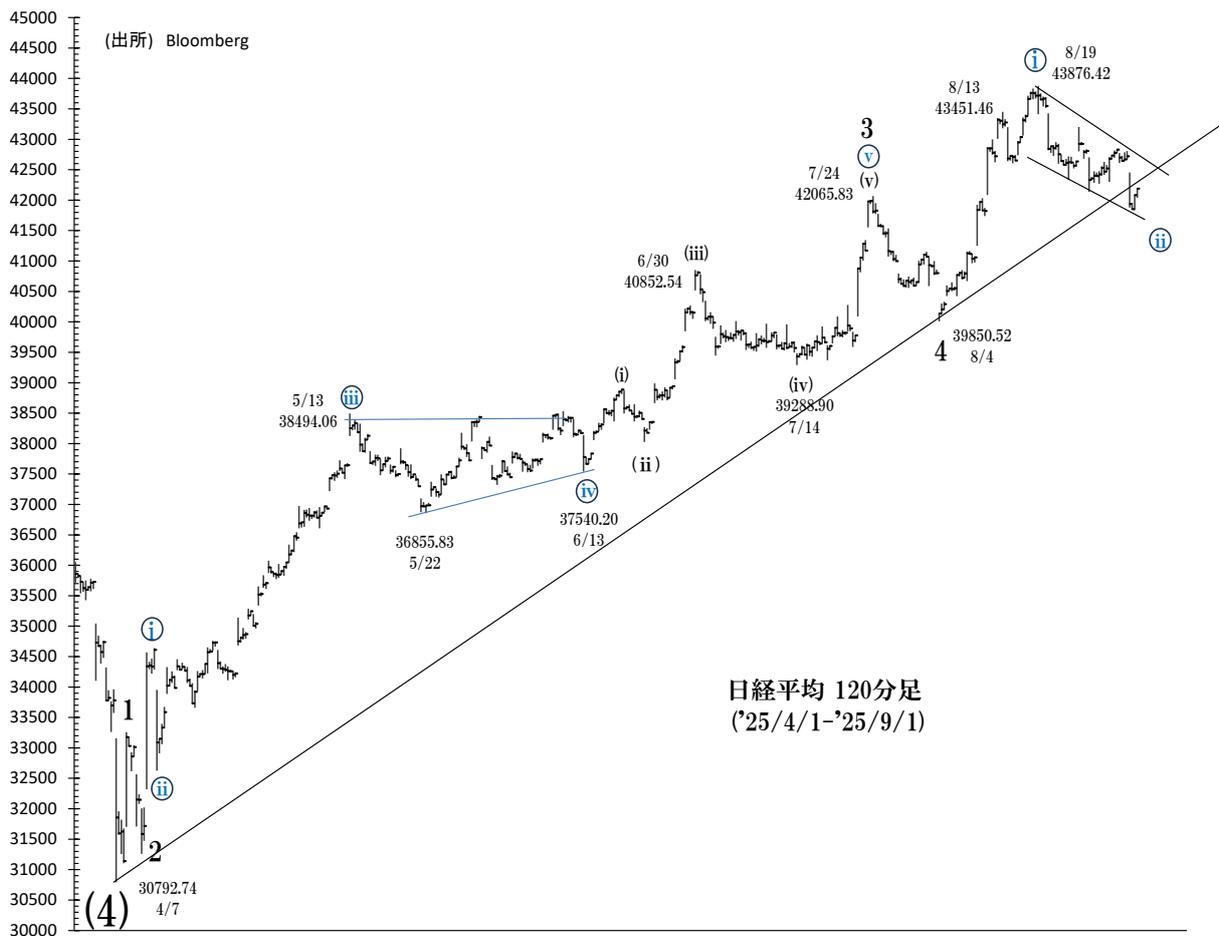
第(5)波目には、①企業業績や景気などファンダメンタルズは以前より弱め、②平均出来高は少ない、③中小型株が選好されやすい、④先行きへの極端な楽観論、などの特長があります。現在は①～③は揃っていますが、④の状況にあるとはまだいえません。

極言すれば、懐疑論が強い楽観論に置き換わらない限り第(5)波の強気相場は続くと思われま。9～10月に日経平均が4万5000円～4万9000円を付けてもおかしくない、とみています。

4月第1週から8月第3週までの4カ月間で、海外投資家は現物を6.3兆円買い越し、最大の買い主体に躍り出ました。それに5.16兆円を買い越した事業法人が続きます。現物に加えて先物も1.80兆円買い越している海外投資家は、今後の相場の鍵を握る主体といえま。

ちなみに、9月は例年株安になりやすい月ですが、仮に自民党総裁選が前倒しで実施されるなら、それは日経平均強気シナリオ実現に向けた大きなカタリストになる可能性があります。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

フィボナッチ比率からの目標価格①は[3164]、目標価格②は[3323]です。3130(8/18 高値)から調整に入っていますが、直近安値 3045(9/1)までの下げ率(2.7%)は、日経平均(4.65%)に比べて小さくなっています。これは建設、不動産、金融、情報通信など内需バリュー株の優位性をより印象付けるものです。短期的には 25 日 MA[3032]付近で下げ止まるか注目されます。

[日経平均]

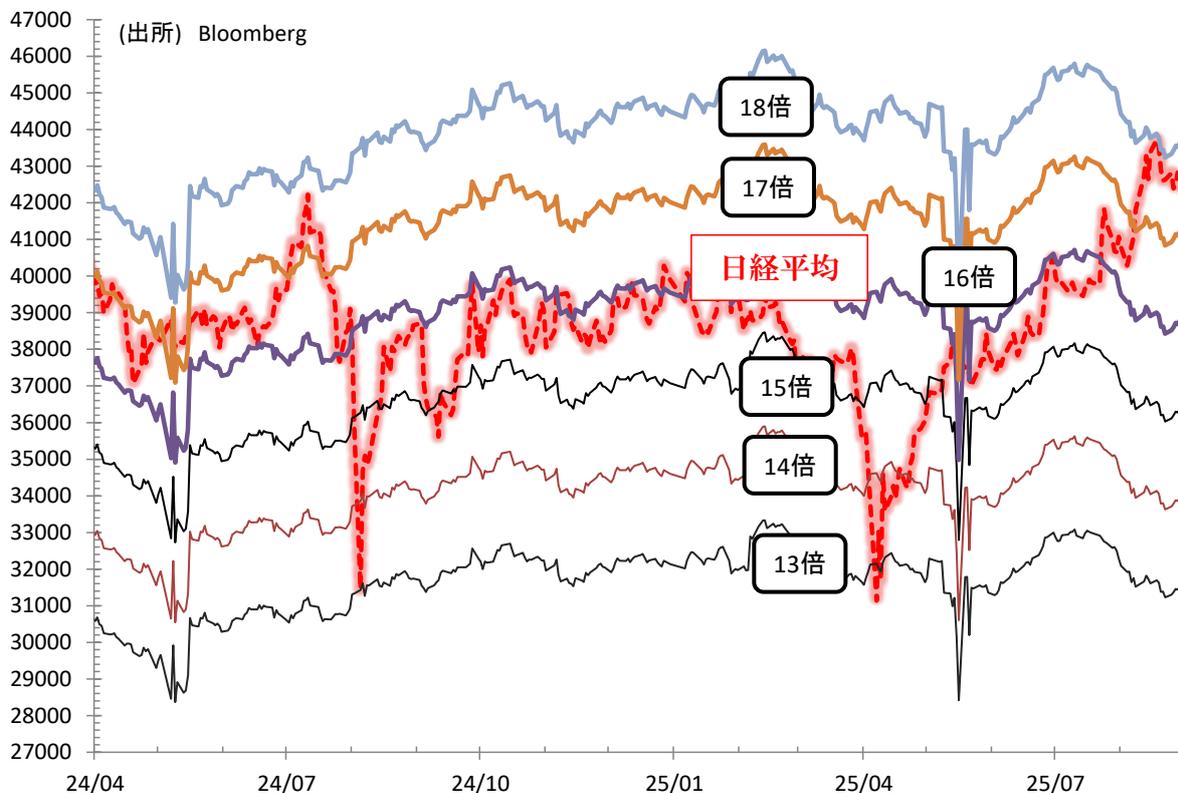
39,850 円(8/4 安値)以来、マイナー級・第 5 波の上昇が展開中であり、43,876 円(8/19 高値)からはマイニュート級・マル ii 波の調整とみられます。9 月 1 日には一時 41,835 円まで下げ、最高値からの下げ幅は 2000 円に達しました。この日の安値はマル i 波の上げ半値押し[41,863 円]に相当しています。42,828 円を抜くと、マル iii 波の上昇開始が示唆されます。

引き続き下値試しが続くなら、マル i 波の 61.8%押し[41,388 円]が下値メドとして注目できましよう。

フィボナッチ比率などから得られる(マイナー級)第 5 波の目標価格は以下の通りです。4 万 5000 円処をクリアすると、次の大きな節目として 4 万 9000 円処に注目できます(ただし、そこまで上昇する必然性はありません)。**[44,597 円][45,230 円][48,568 円][48,896 円][48,964 円][49,074 円]**

[予想 PER 別の日経平均水準]

9月1日の日経平均予想 PER は 17.53 倍・予想 EPS は 2406 円。8月8日以来、16 営業日連続で PER17 倍台が続いています。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】 (米株市場はレーバーデーで9月1日休場)

(プリファード・カウント)

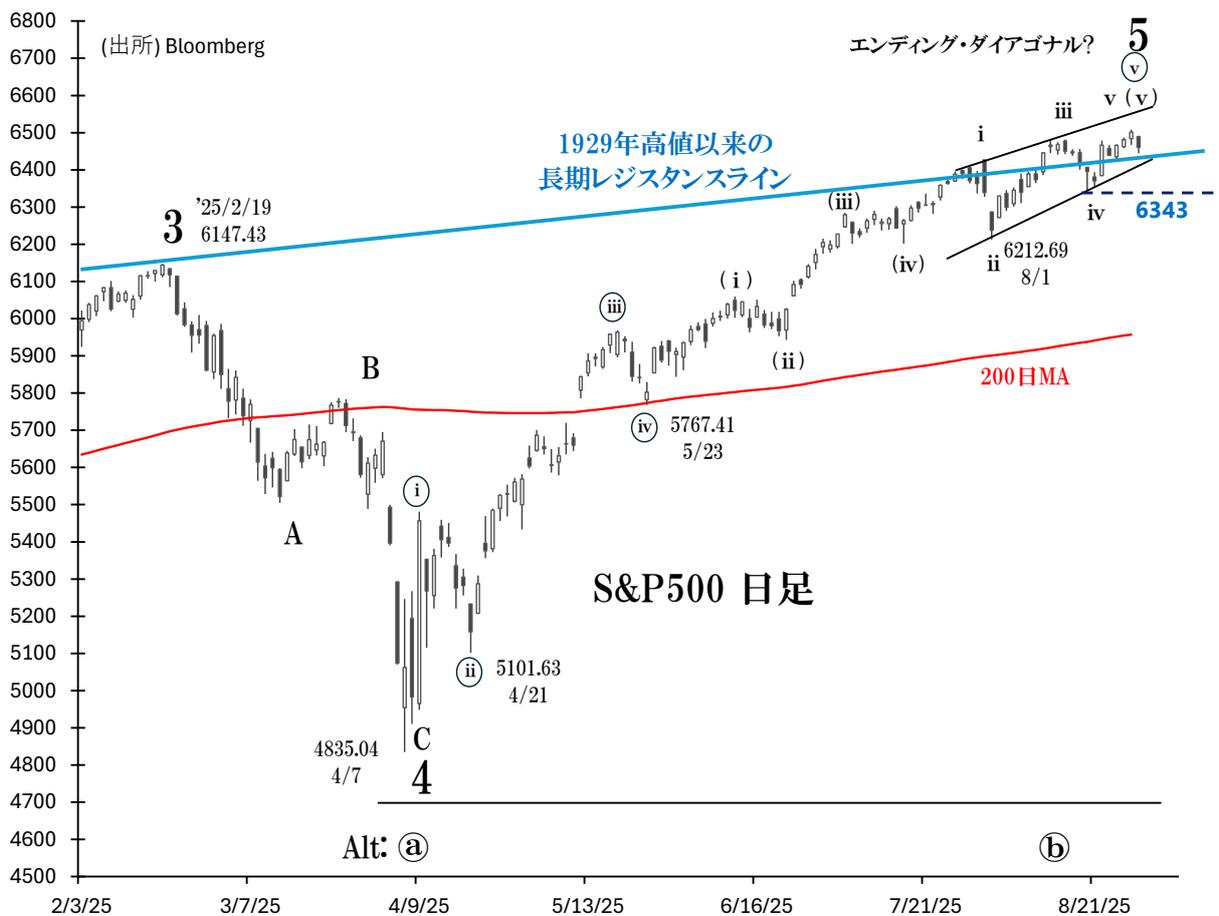
22年10月安値(28,660ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年4月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から20%安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも4月安値(36,611ドル)は維持されるでしょう。その後1~2年程度のみみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

足元、NYダウが45,757ドル(8/22高値)を以てピークを付けたかを見極める局面です。44,579ドル(8/21安値)を割ると弱気トリガー。調整局面入りが見込まれます。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

S&P500 は 1929 年と 2000 年の高値を通る超長期レジスタンスラインに 7 月下旬に達し、足元まで同ライン付近で推移しています。前回の場合、S&P500 は昨年 12 月初めに同ラインに到達し今年 2 月下旬まで 3 カ月近くレンジ相場を形成し、そこから 4 月底まで 20% 下げました。今回も同様なら、S&P500 は 10 月頃まで今のような高値圏でのみ合いが続いた後、急落が控えていることとなります。

8 月 28 日には一時 6508 と最高値を更新しました。もっとも、S&P500 の高値更新は他の主要指数によって確認されていません。7 月中旬からの上昇パターンは、強気トレンドの最終局面を意味する「エンディング・ダイアゴナル」の可能性があります。6343(8/20 安値)を割ると弱気トリガー、調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エリオット波動分析】

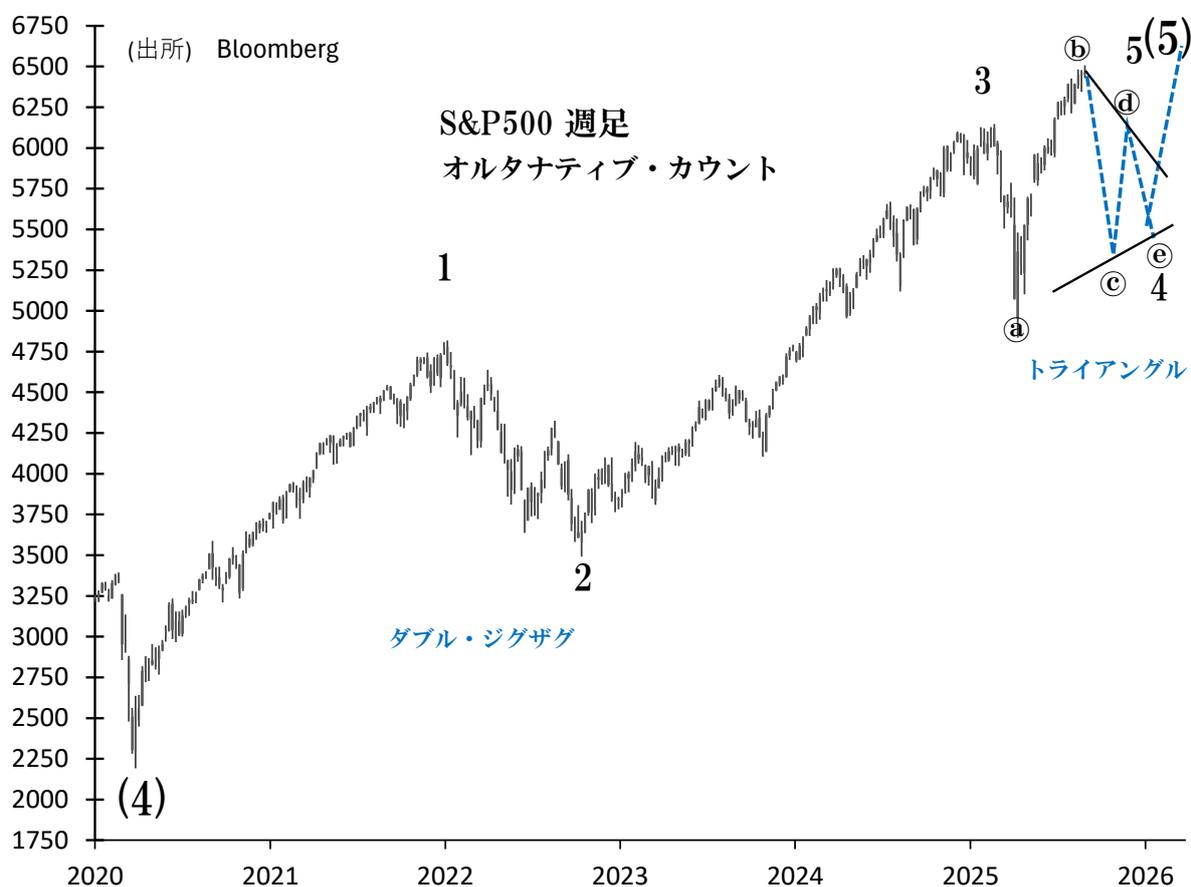
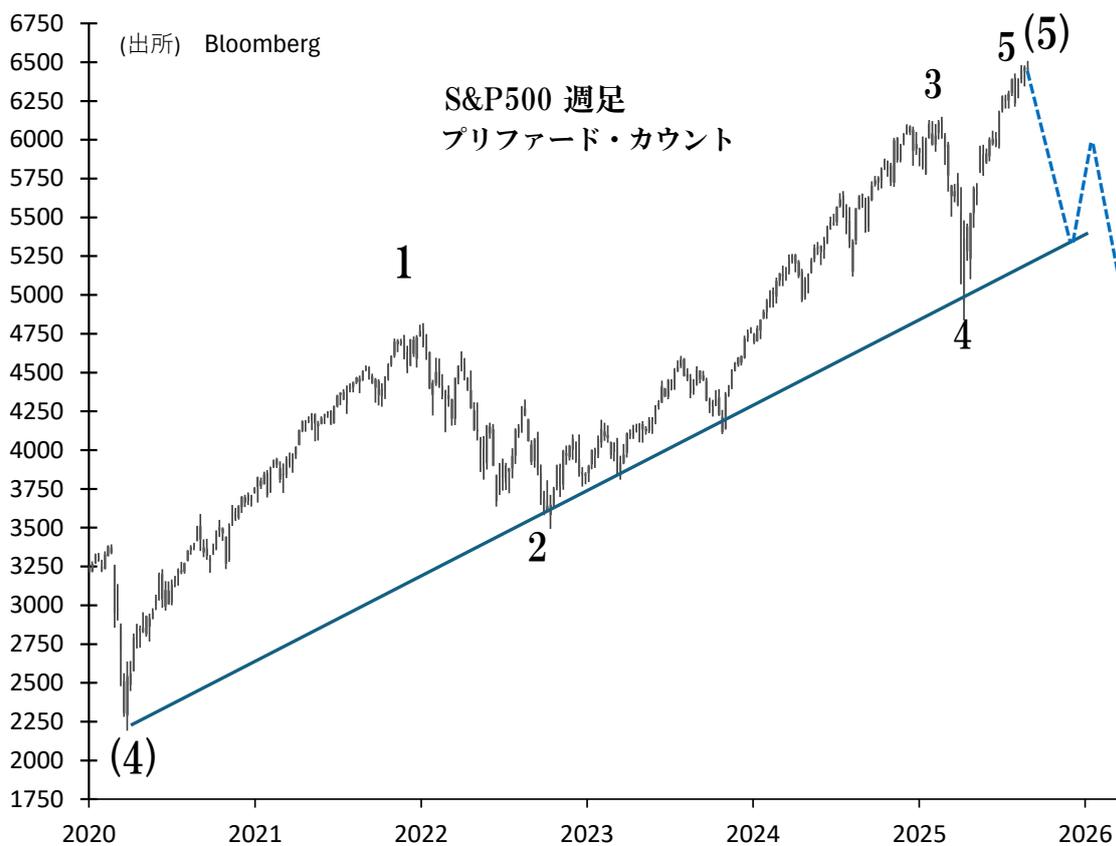
(プリファード・カウント)

4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第 5 波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

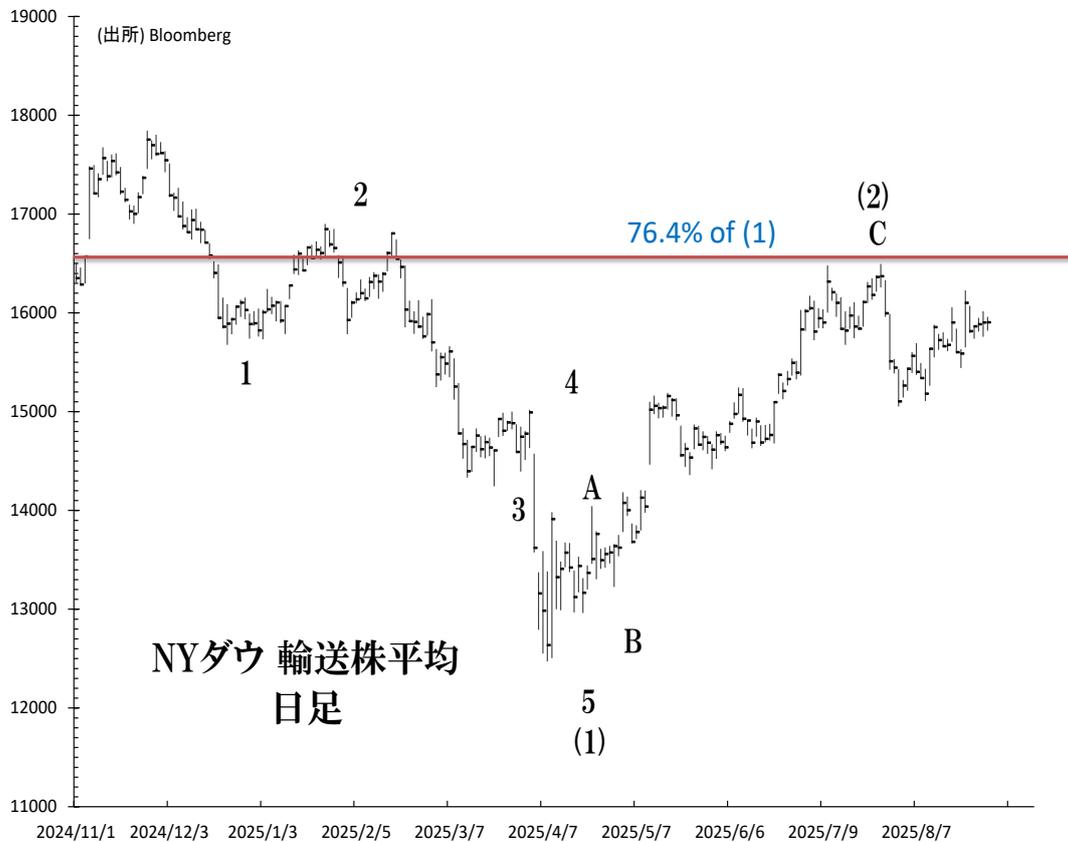
(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

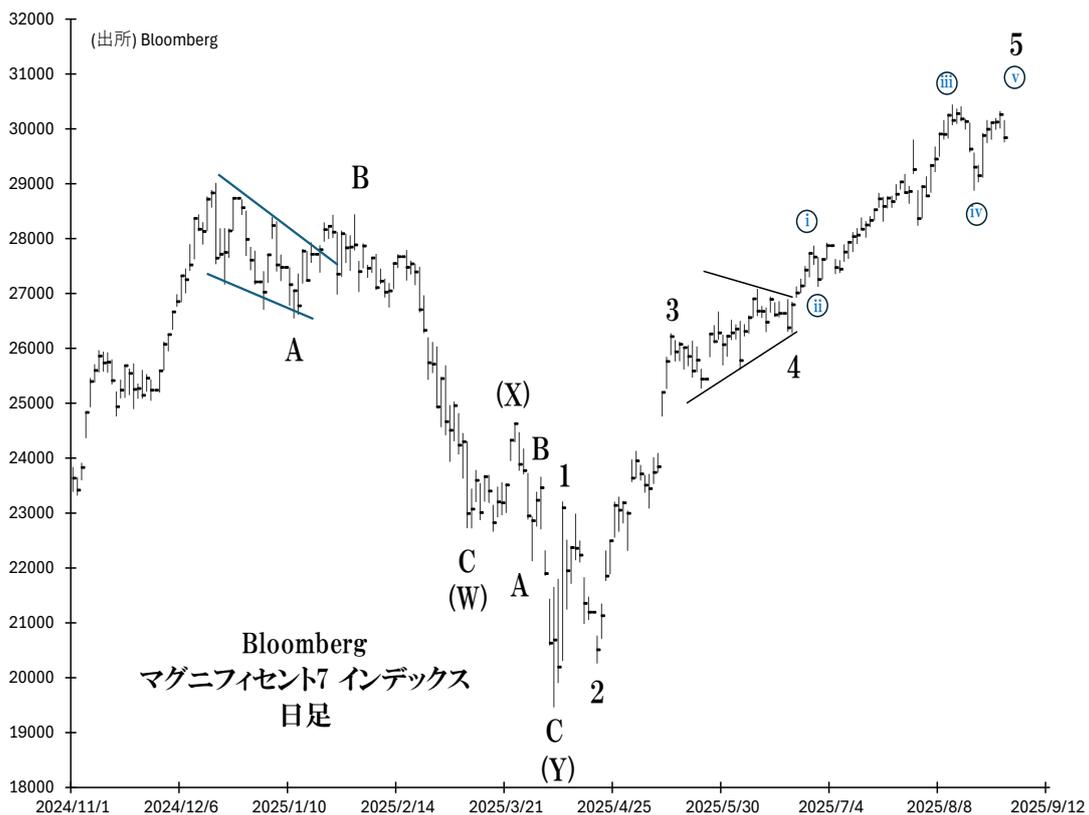
近々③波の下げがスタートし、それは②波(2 月～4 月)下げ幅に対し 62%～66%の大きさ(813～866 ポイント)になるでしょう。この③波により S&P500 は、5400 を下回る展開になりそうです。



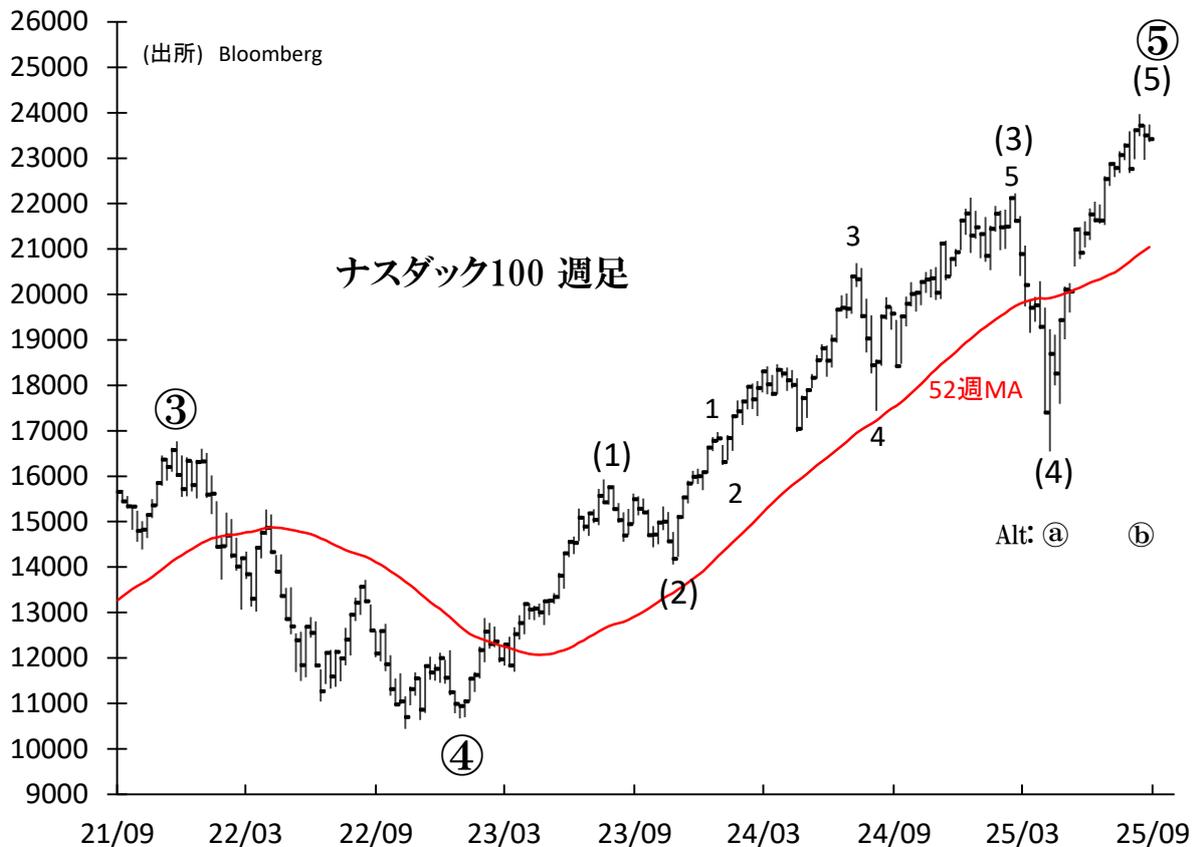
[ダウ輸送株平均] (直近で最高値更新の)ダウ工業株平均と「未確認」続く



[マグニフィセント7] 4月から5波構成による上昇



ナスダック



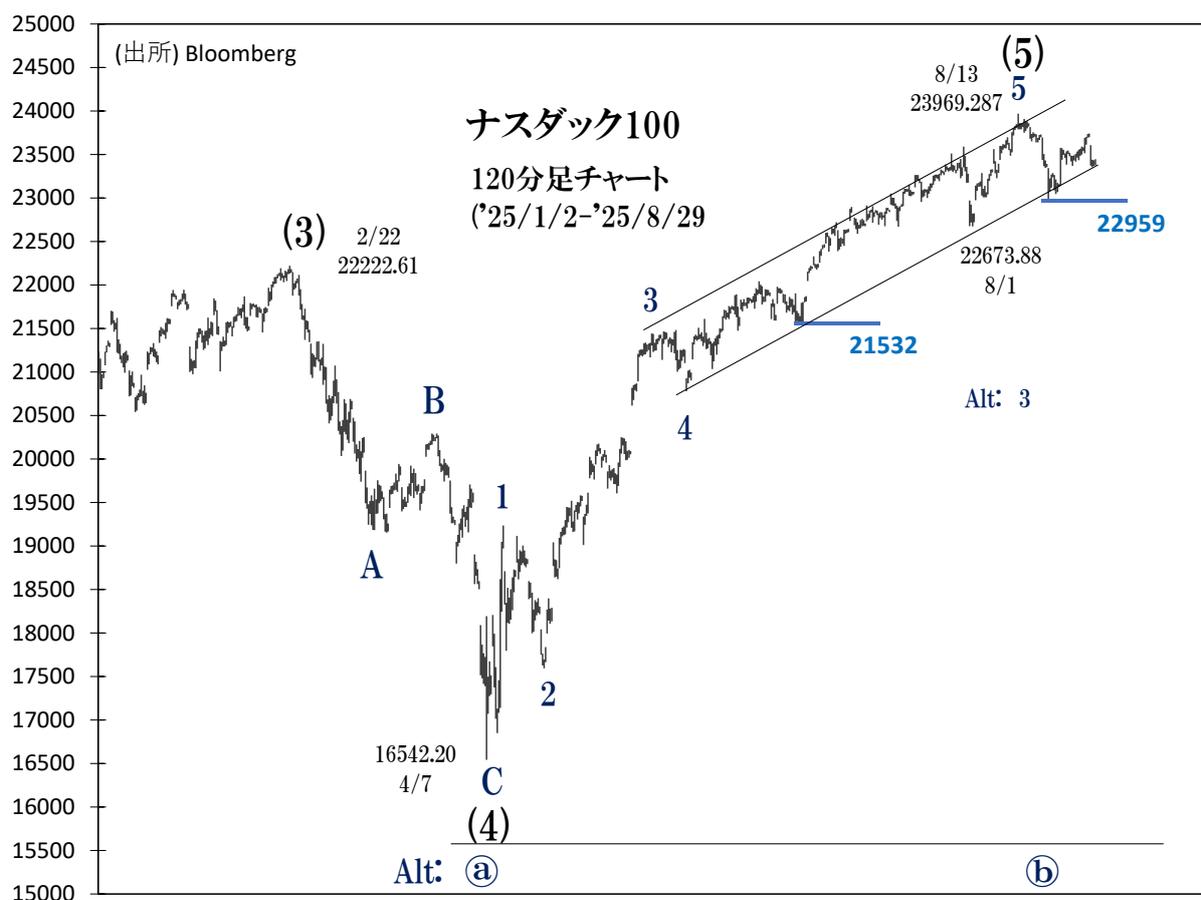
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。既に最高値を更新しており、第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。遠からず調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中b波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からずc波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでもc波の下げ幅はa波のそれに対し 62%~66% となり、b波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



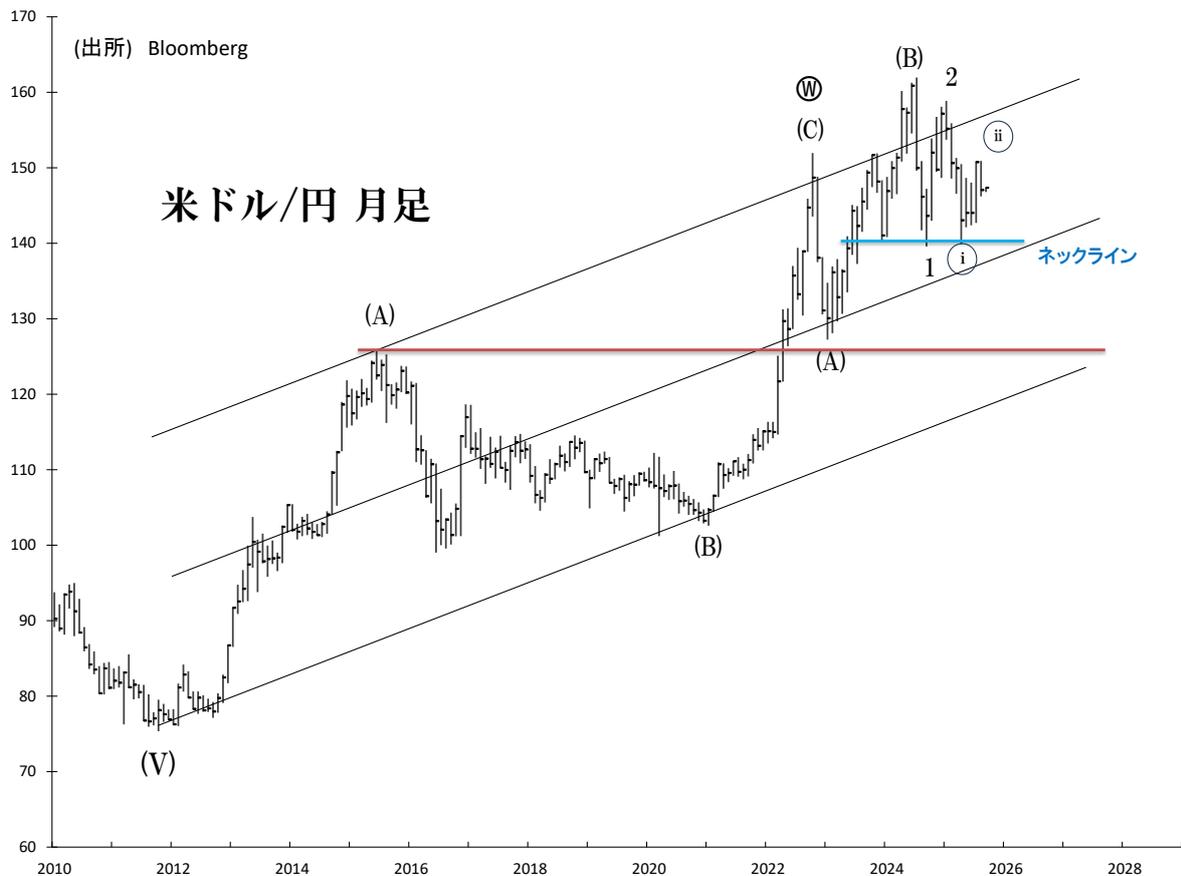
【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波、あるいは、第(4)波「トライアングル」中**ⓑ**波とみられます。

8 月 13 日高値・23,969 は、フィボナッチ比率からの上値想定レンジ[23,195-24,224]内にあります。当面(あるいは長期的な)の高値を付けたか、付けつつあると思われます。

22,959(8/20 安値)を下回ると最初の弱気トリガーが発動します。この場合、ナスダック 100 の目先下値メドは 22,673 です。

米ドル/円



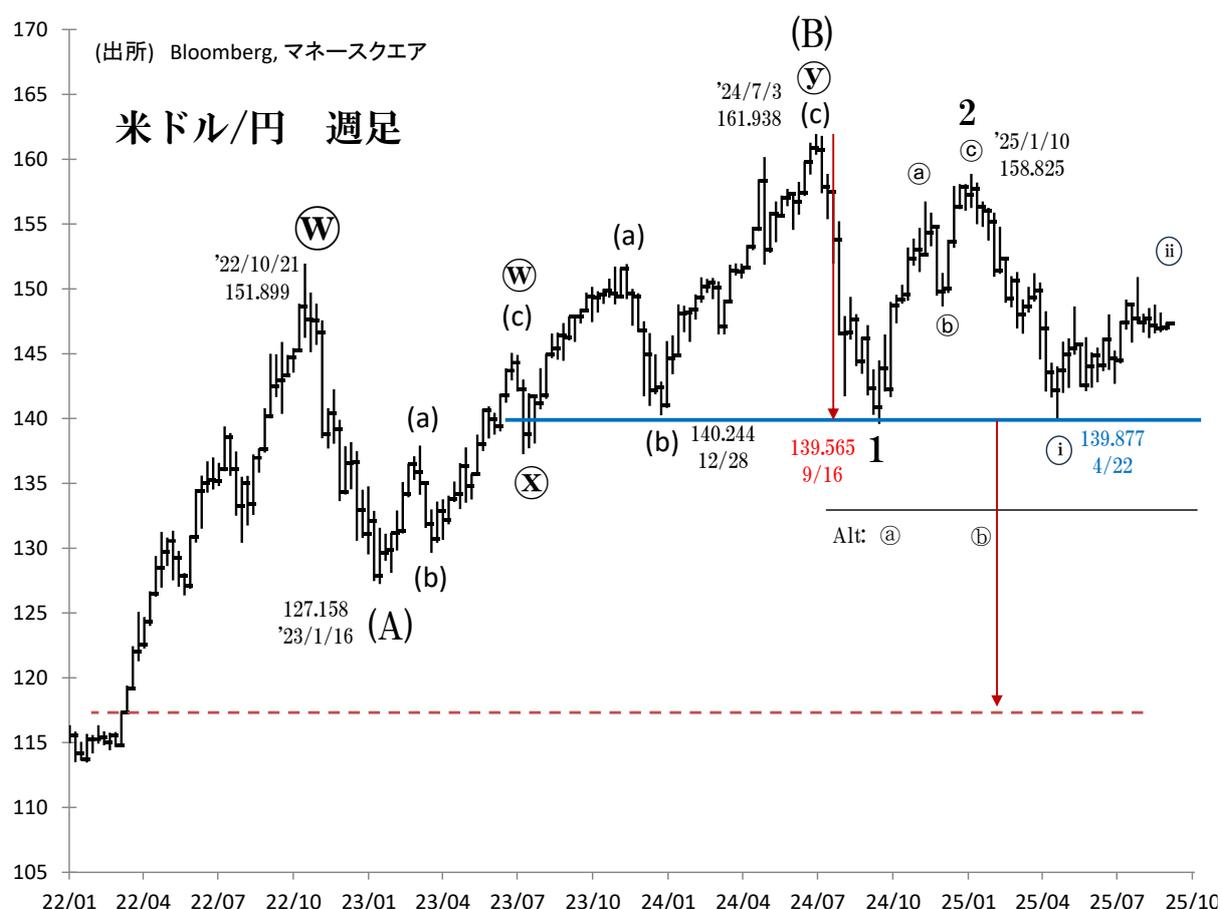
【月足・エリオット波動分析】

16年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は2028年4月頃まで「円高の時間帯」の中にあります。

今後数カ月、ドル/円はじり高の状態が続きそうです。

しかし、おそらく26年前半には139円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。

なお28年4月頃までに、1ドル=125円~120円を付ける可能性が高い、と筆者はみています。

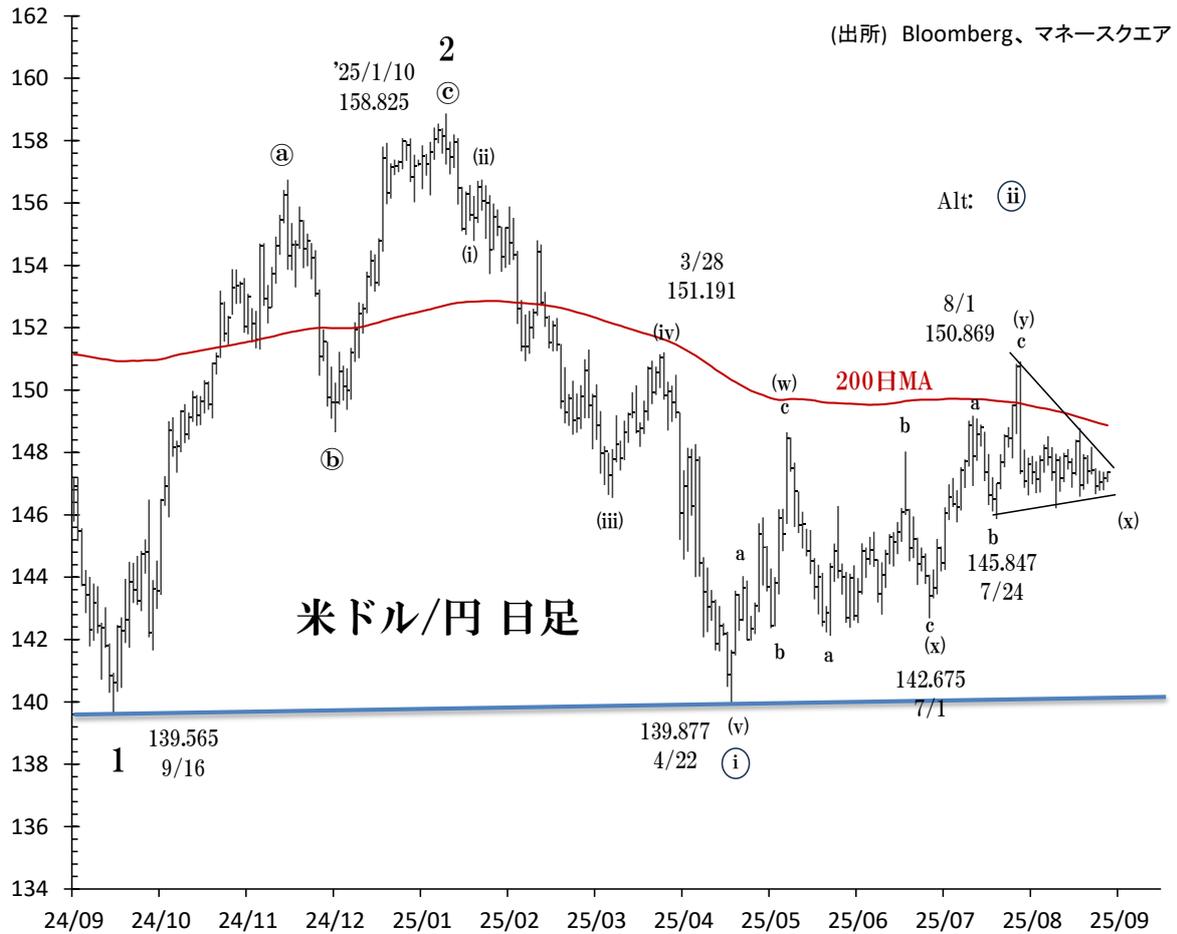


【週足 エリオット波動分析】

今年 1 月からのドル安・円高は、第 3 波による下落とみることができます。これによれば、先々1ドル＝120 円試しが視野に入ります。第 1 波と第 3 波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

139.877 円(4/22)からのマル ii 波による上昇はまだ続いている、とみています。足元でトライアングルが形成されており、短期的にもドル/円は保ち合いから上放れるかもしれません(後述)。この場合、1 ドル＝151 円処を試すことになりそうです。

中長期でのドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ 1 ドル＝120 円割れの可能性もみえています。



(出所) Bloomberg、マネースクエア

【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)からのドル/円上昇はマル ii 波によるリバウンドです。4 月からの波形は複雑かつチョップピーなものであり、修正波としての特長をよく表しています。

筆者はマル ii 波が「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」に発展するとみています。目先 148.740 円(8/22)を超えると、8 月から形成したトライアングル上放れ開始の合図となるでしょう。この場合、ドル/円は[151.191 円]、[151.586 円](1 月からの円高の 61.8%戻り水準)や[154.353 円](同 76.4%戻り)などを試すでしょう。

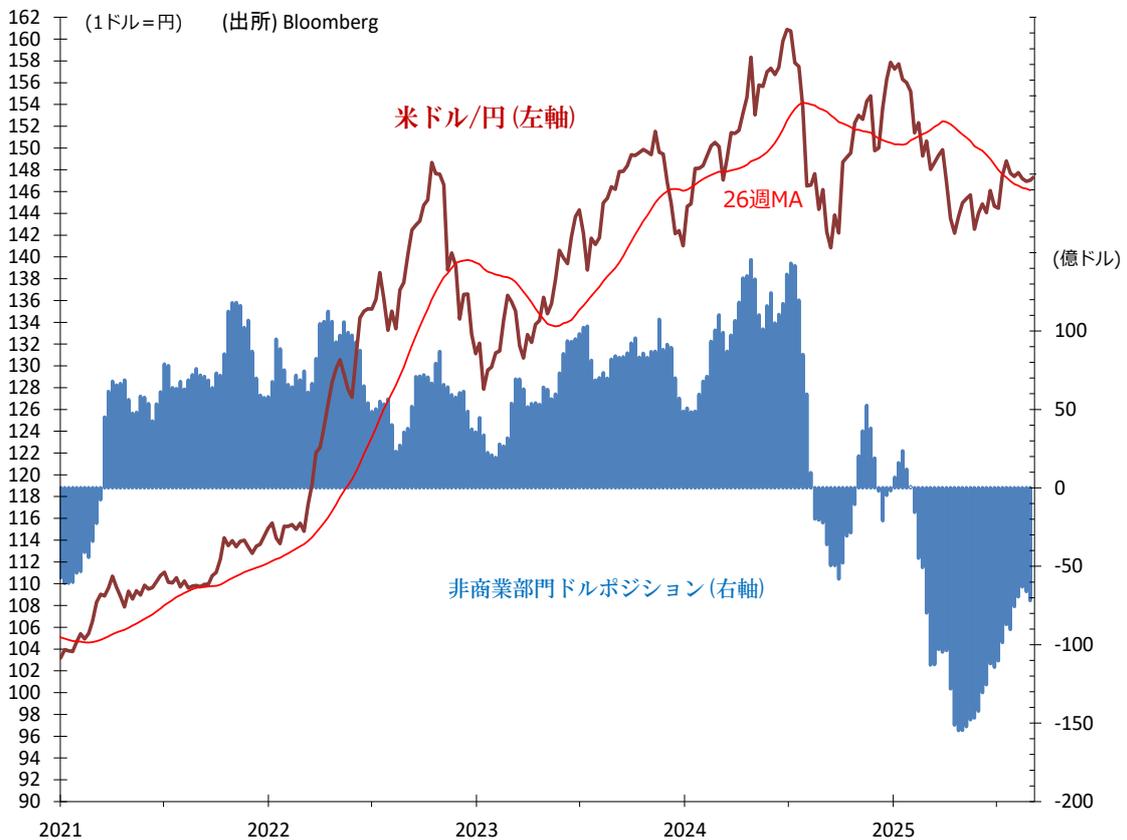
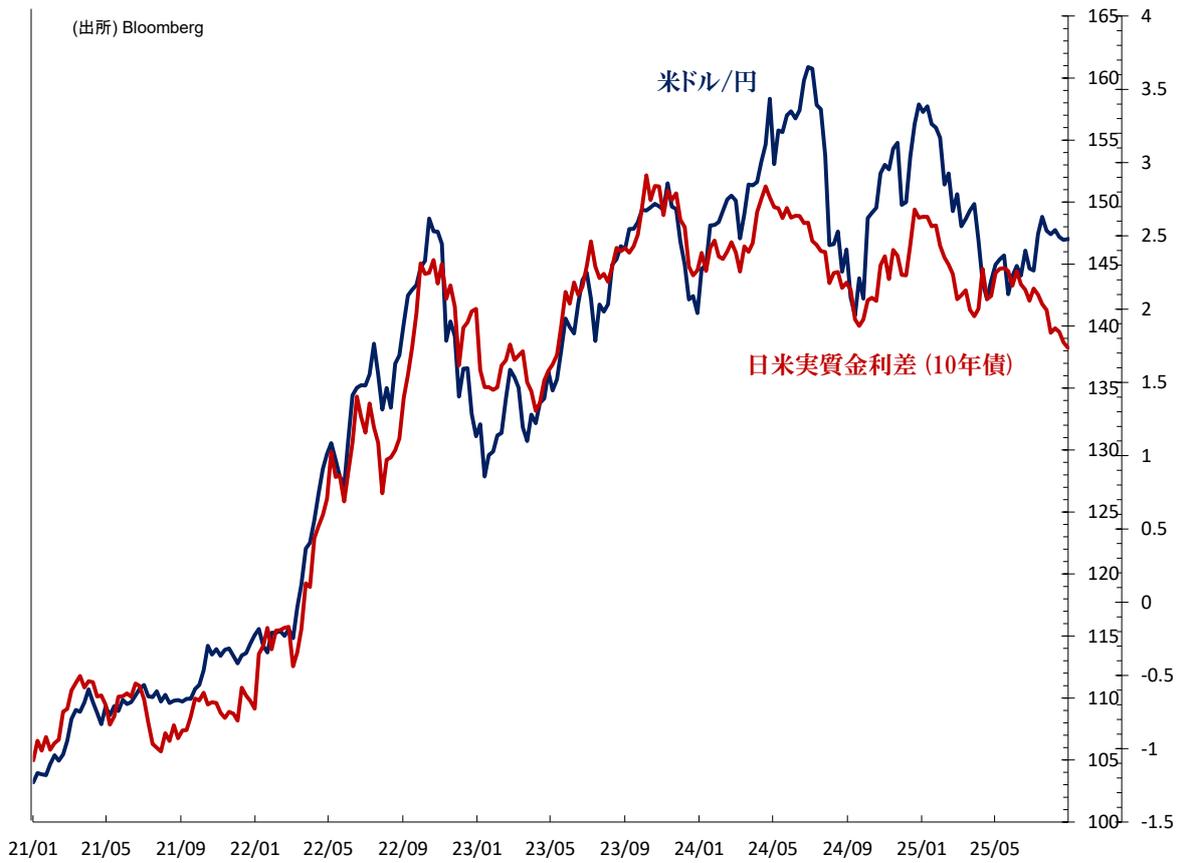
一方、今後 145 円処を明確に下抜くと、マル ii 波が 150.869 円(8/1)を以て、既に終わった可能性を考慮する必要があるでしょう。

金利差からのドル/円推計値

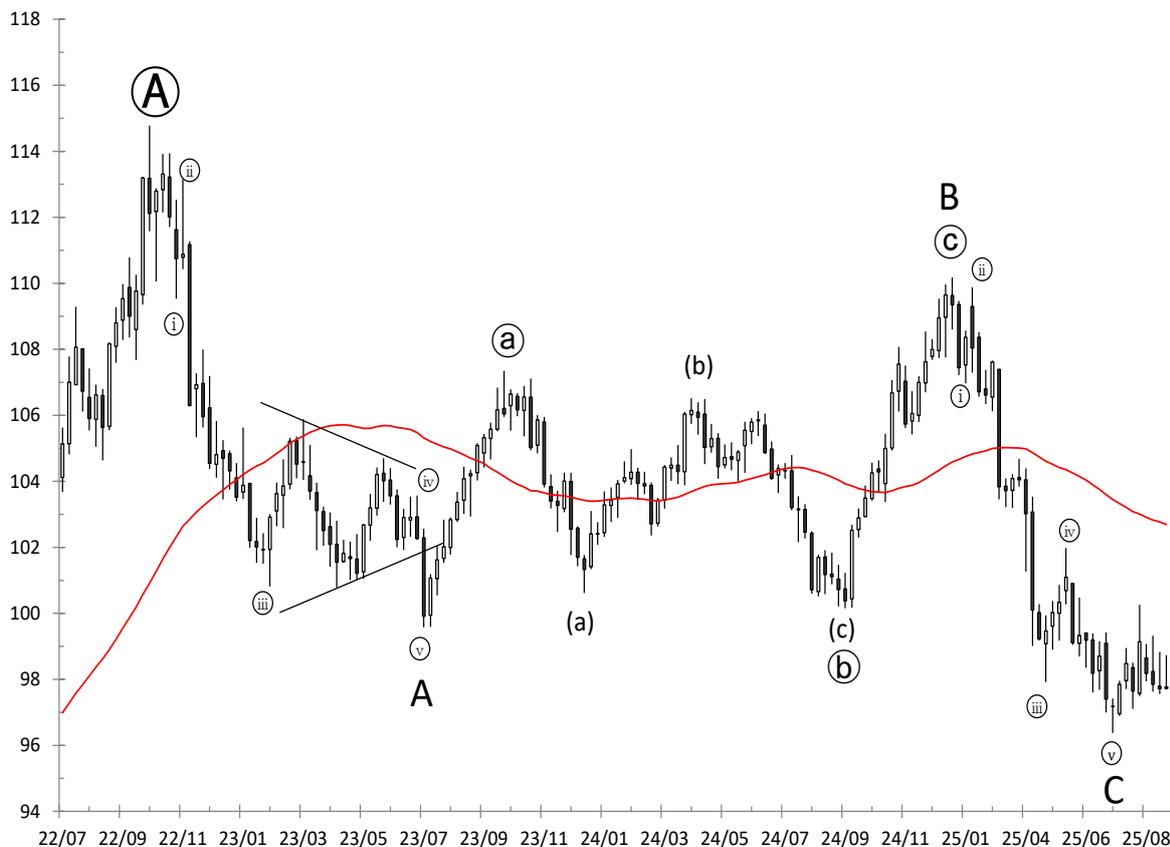
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[141.156 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 2 週連続で拡大(2025 年 8 月 26 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 65.99 億ドルから 71.82 億ドルへ 2 週続けて拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

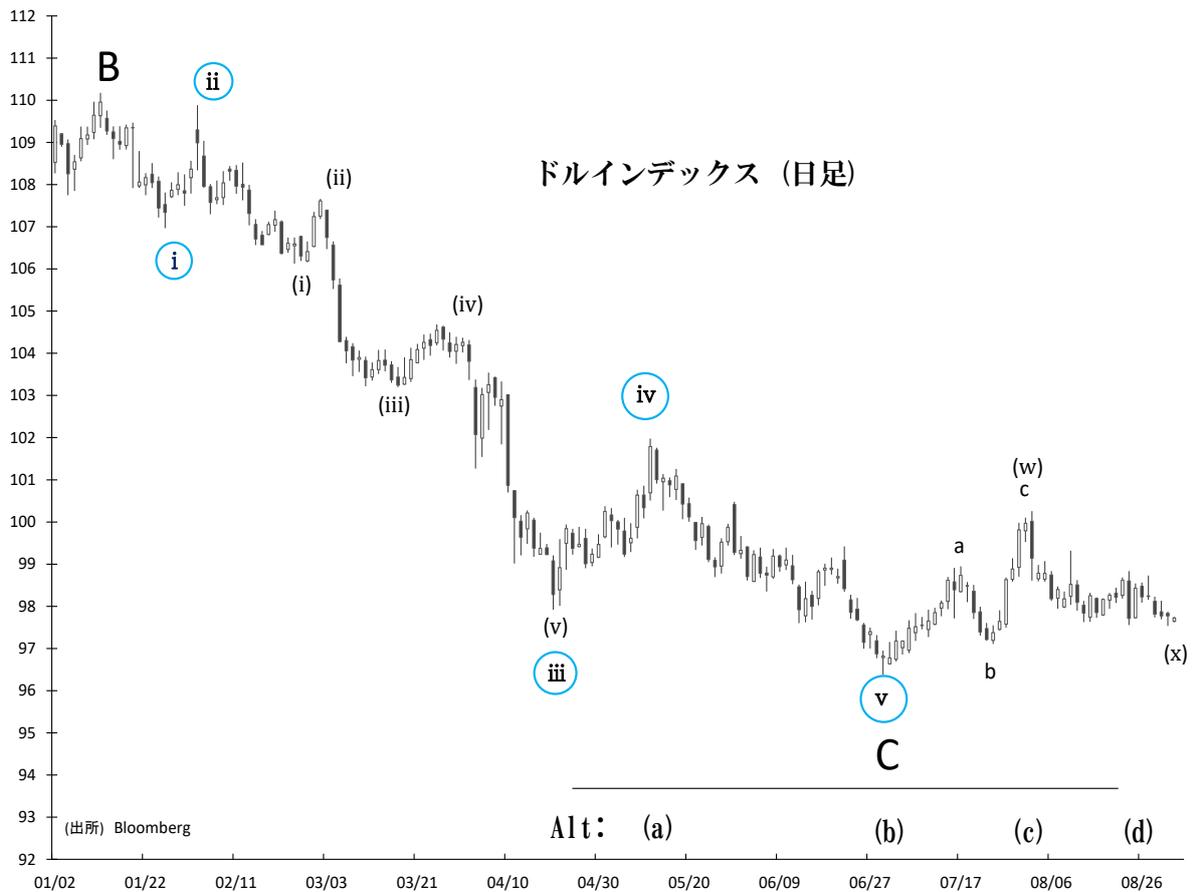
年初から半年近く続いたドル安 C 波は 96.377(7/1)で終わった可能性が高い、とみています。それは、22 年高値からのジグザグ(A-B-C)の完成を意味するものです。

少し長い時間軸でみると、B 波は短くとも 2028 年頃まで続くでしょう。

この見方通りなら、7 月からのドル高は(X)波に位置付けられます。B 波全体は「ダブル(トリプル)・ジグザグ」を描いていくでしょう。

ドル指数は、8 月から 11 月まで強くなる季節性があります。ここからすると、2~3 カ月はドル高傾向が続くとみられ、当面 101.977(C 波レッサーディグリー・マル iv 波頂点)を目指すでしょう。

一方、今後 97.109(7/24)を下回ると上記見通しは撤回され、C 波中マル v 波によるドル安局面入り、と判断されます。この場合は 94.976 を目指すでしょう。これは、A 波と C 波が等しく下がる水準のことです。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
